

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会

「平成 22 年度 第 1 回 議事録」

日時	平成 22 年 7 月 21 日 (水) 13:30~16:30		場所	地盤工学会会議室	
委員長	古関 潤一	○	幹事(WG7)	豊田 浩史	○
幹事	畠山 正則	○	委員	浅古 勝久	×
委員	小橋 秀俊	○	委員(WG1)	細野 高康	○
委員(WG2)	太田 岳洋	○	委員(WG3,10)	藤原 照幸	○
委員(WG3)	山本 肇	×	委員(WG4)	仙頭 紀明	○
委員(WG5)	高木 宗男	○	委員(WG6)	椋木 俊文	☆
委員(WG12)	岡田 哲実	○	オブザーバー	中村 裕昭	○

○:出席 ☆:電子会議出席 ◎:代理出席 ×:欠席

議事録担当: 畠山正則

配布資料

資料番号なし:平成 22 年度 第 1 回 室内試験規格・基準委員会 議題書

資料 22-1-1(1):室内試験規格・基準委員会名簿

資料 22-1-1(2):室内試験規格・基準委員会の WG

資料 22-1-2(1):柱状図絵模様の不整合(国土交通省宛文書)

資料 22-1-2(2):柱状図絵模様の不整合(説明)

資料 22-1-2(3):柱状図絵模様の不整合(使用状況調査結果)

資料 22-1-2(4):柱状図絵模様の不整合(代替案)

資料 22-1-3:室内試験規格・基準委員会予算

資料 22-1-4:基準部会議事録

資料 22-1-5(1):WG12 議事録

資料 22-1-5(2):基準化 WG 設立趣意

回覧資料 22-1-1:柱状図絵模様関連

回覧資料 22-1-2 : WG12 報告書

【 議 事 】

- 1) 新しい室内試験規格・基準委員会の体制 資料 22-1-1(1), (2)  
古関委員長の挨拶の後、各委員の自己紹介を行い、名簿の確認を行った。  
常設ワーキング(WG1~WG6)で必要な活動が発生した場合にはメンバーを招集する。
- 2) 土質柱状図模様の不整合について 資料 22-1-2(1), (2), (3), (4)
  - ・ 中村氏より土質柱状図に使用されている図模様の不整合について報告された。特に、土質名、土質記号ならびに柱状図の図模様が“JIS”, “国交省電子納品要領案”と“地盤工学会”で異なっている現状の説明と、土質記号と図模様の変更案が示された。
  - ・ 柱状図模様の実務における使用状況調査報告では、“電子納品が仕様”にある業務とそうでない業務とで、柱状図模様が使い分けられている実態のヒアリング結果が報告された。

- ・ 資料 22-1-2(4)のように不整合を解消するための代替案が示されたが、委員会としては第 1 案(中村案)を修正した内容(粘性土の記号は従来の JGS に従って規程しない)で交渉を進めることとし、関係機関(国交省)に交渉方法の打診をすることとした。
- ・ 打診は古関委員長があたることとなった。

3) 予算について

資料 22-1-3

- ・ 本委員会の今年度予算は、基準作成に関わるワーキングには優先的に振り分けることとするが、何をするか計画を挙げてもらうこととした。
- ・ その他のワーキングについては、特段振り分けないが、必要時に幹事に連絡してもらうこととした。

4) 赤本の正誤表について

- ・ 各ワーキングとも、ホームページ用ならびに増刷用の 2 回に分けて報告している。
- ・ 事務局に、最新の正誤表を学会ホームページにアップしてもらった後、各 WG で確認の作業を行うこととした。

5) 各 WG の引継ぎ事項について

- ・ WG 全体の課題として JIS 対応がある。
- ・ 土と岩の化学試験の JGS 基準化について、今後の動向により判断する(WG2)
- ・ 基準の JIS 化検討、JIS 書式化文章の調整(WG4)
- ・ 具体的には引き継ぎ事項はないが、JIS(JIS L 0221 ジオシンセティック用語, JIS L 1908 ジオテキスタイル試験方法?)がある基準の取り扱いについて対応を検討する。(WG6)

6) JIS 対応について

資料 22-1-4

- ・ 昨年の改訂時には、JIS 審議会からの厳しい意見が突きつけられた。
- ・ 次期改訂時には大幅な見直しが必要と思われるので、それぞれの WG で課題を抽出する。そのための資料として、これまでの審議会議事録を集め、各ワーキングに発送する。(幹事が担当)
- ・ また、規格改定のケーススタディーとして、コンクリートの圧縮強度試験方法(JIS A 1108)を見本として“土の一軸圧縮試験方法”の規格の見直し案を作成し(WG4 担当)、その結果を各ワーキングに配布して同様な資料を作成することとなった。

7) 最新規格・基準の英訳について

資料 22-1-4

- ・ 英文の規格、基準のリストを作成し、ホームページに載せる準備を行う。
- ・ 英訳は JIS を優先するが、JGS 会員が海外で活躍するために役立つようなものから着手する。
- ・ 英訳の統一化のための見本を作成する。(英語の得意な人に依頼することも検討する)

8) 岩石の繰返し強度試験方法基準化 WG の設立について

資料 22-1-5(1), (2)

- ・ 「岩石及び岩盤不連続面の動的繰返し強度・変形試験方法基準化検討」に関する報告書の内容を岡田委員より説明があった。
- ・ 基準化委員会設立趣意書について岡田委員より説明を受け審議した。
- ・ 三軸試験の繰返し強度試験について基準化委員会を立ち上げる方向で検討することとなった。
- ・ 基本的にはこの方針で作業を進め、説得力のある方針(内容)で設立趣意書を作成して

もらうこととなった。(原子力関係の業務が大多数ではあるが、その他の実務でも行われていることをアピールし、JIS 化の可能性も高いこと---等を趣意書に入れる)

- ・ 作成の目処は 8 月末ごろとする。

#### 9) その他

##### (1) JGS 基準の JIS 化の促進 (日下部会長からの提案の趣旨説明) 資料 22-1-4

- ・ 以下のような内容の検討依頼が基準部を通じてあったことが報告された。
  - a-1. ISO 等の活動をする場合、JIS 化促進が必要である。活動費用の援助も得やすい。
  - b-1. 基準の維持管理費用の軽減対策として、JIS 化できないようなマニアックな JGS 基準作成は控える。
- ・ 上記に対し、以下のような意見もあり得る旨の発言があった。
  - a-2. ISO の策定作業に対しては、必ずしも JIS 化されていないなくても JGS として意見を提出することができる。
  - b-2. 基準の維持管理費用はそもそも軽微である。JIS 化できない基準でも、世界に先がけてそれを作成することに意義がある場合もある。

##### (2) 英文ホームページ改訂に関する希望調査報告(基準部会報告) 資料 22-1-4

- ・ 簡易に変更できるものから修正作業に着手し、その一環として学会基準リストを HP に掲載することとした。

##### (3) ISO 国内委員会改革案(基準部会報告) 資料 22-1-4

- ・ 国内の基準を担当する委員会と ISO 委員会の連携が悪く、国際対応についても不具合が発生している。今後は、当委員会としても ISO 委員会に対して情報提供等の協力を行うことになるので、了承していただきたい旨の説明が古関委員長よりあった。

##### (4) 会員からの意見に対する対応(報告)

- ・ 粒度試験の解説において、20 %粒径  $D_{20}$  と透水係数の関係を示した表の値に誤りがあることがわかり、会員に回答するとともに、正誤表にも追加することが報告された。

##### (5) 次回の委員会予定日

- ・ 平成 22 年 10 月 22 日(金曜日) 13:30~16:30

以上